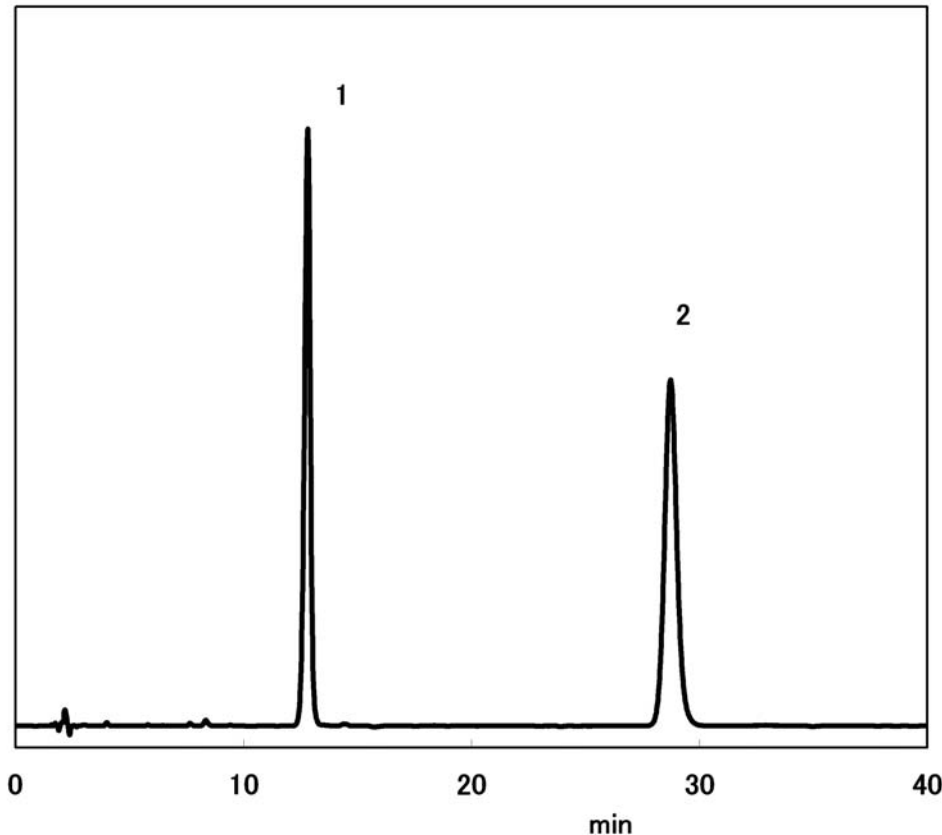




センナの成分定量法：システムの性能



Column: TSKgel ODS-100V 5 μ m
(4.6mm I.D. x 15cmL)
Column temp.: 50 $^{\circ}$ C
Eluent: 2.45g Tetraheptylammonium-Br
in 50mM AcONa(pH5.0):CH₃CN
(=17:8) 1 L
Flow rate: 0.8 mL/min
Detector: UV (340nm)
Injection vol.: 10 μ L
Concentration: 50 μ g/mL
(Sennoside A)

Samples:
1: Sennoside B
2: Sennoside A

$R_s=22.1$, $T_p=13,800$ (Sennoside A)



センナ

—第十六改正 日本薬局方より—

本品は *Cassia angustifolia* Vahl 又は *Cassia acutifolia* Delile (*Leguminosae*) の小葉である。

本品は、定量するとき、換算した生薬の乾燥物に対し、総センノシド [センノシド A ($C_{42}H_{38}O_{20}$:862.74) 及びセンノシド B ($C_{42}H_{38}O_{20}$:862.74)] 1.0 % 以上を含む。



センナ

—第十六改正 日本薬局方より—

定量法 ……

試験条件

検出器: 紫外吸光光度計(測定波長: 340 nm)

カラム: 内径 4.6 mm、長さ 15 cm のステンレス管に 5 μ m の液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度: 50 °C 付近の一定温度

移動相: 薄めた pH 5.0 の 1 mol/L 酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液 (1→10) / アセトニトリル混液 (17 : 8) 1000 mL に臭化テトラ *n*-ヘプチルアンモニウム 2.45 g を加えて溶かす。

流量: センノシド A の保持時間が約 26 分になるように調整する。



センナ

—第十六改正 日本薬局方より—

システム適合性

システムの性能:

標準溶液 10 μ Lにつき、上記の条件で操作するとき、センノシド B、センノシド A の順に溶出し、その分離度は 15 以上で、センノシド A のピークの理論段数は 8000 段以上である。